

一隅を照らす

社会福祉法人
北光福祉会報

2022

冬号



花植えのお手伝い（北光学園）



ハロウィンカードみつけた（ばすてる）



外での食事、おいしいね（遊友やすくに）



コスモス種の収穫ボランティア（遊友ほたる）

一隅を照らす 2022 冬号 主な内容

■もっと女性が活躍を	湯浅 民子……………	P 2	■成長の喜びを共有ながら	荒谷 涼音……………	P12
■子どもの成長	安藤いづみ……………	P 4	■ばすてる 冬の陣	山口 香織……………	P12
■16年間を振り返って	岩崎 知美……………	P 4	■利用者に寄り添いながら	佐藤 昌生……………	P13
■一喜一憂しながら	宮本 芳……………	P 5	■パオ遠軽の事務所はどこ？		P13
■向陽園のステキな三人……………		P 6	■ご芳志のご報告と御礼……………		P14
■コロナ集団感染を経験して	大杉 潔……………	P 7	■後援会だより……………		P15
■共に楽しむ活動を	菊地 里奈……………	P 8	■鯉のぼりボールのご寄贈 / 絵画のご寄贈……………		P15
■「明日来る？」	遠藤 光枝……………	P 9	■お薦めの本 / お悔み / あとがき……………		P16
■地域の活動に参加して	大累 悟……………	P10			
■沢山のスキルを身につけて	谷 千洋……………	P11			

（「北光福祉会ものがたり」はお休みします。）



もっと女性が活躍を

社会福祉法人 北光福祉会

理事長 湯浅 民子

日本には「女は家にあつて家庭を守る」という役割分担が存在していました。女性の社会進出が進み、男性と同等に働く女性が増えた現代でもなお、その意識は根強く残っています。仕事をしながら、家事・育児・介護などをそつなくこなす女性は立派と評価されます。逆に仕事ができても、家庭内がうまく行かなかつたり、何か問題が起きたりすると、何故か女性ばかりが非難されます。

働き方でした。女性は貴重な労働力であり、男性と同じように働くべきとされているのです。給与は高くはないが、夫婦で働くのでそれでまかなえる。そのため勤務時間も短く抑えられており、家事や育児は、当然のことに夫婦で分担する。つまり社会は、女性が働くことが前提になっているのです。「母親が外で働くことで、子どもの教育に問題はないものでしょうか？」私はそんな質問をしてみました。その当時、思春期の子育てに困難を感じていたのでしょうか。

平成六年、私は北欧の福祉事情の視察旅行に参加しました。スウェーデン、オランダ、ドイツなどの福祉施設を見学したのですが、重税（25%ほど）にあえぐと言いながら、子育ても、教育も、病気で働けなくなっても、老いて亡くなっても、すべて国が面倒を見てくれるという国家への絶対的な信頼を、まぶしいものと感じました。わけても印象的だったのは、男女の

「そんなことはあるわけがない」返ってきたのはそんな意味の言葉でした。子の親であるらしい男性職員は、何でそんな質問をするのか、その意図が分からない、という表情さえ浮かべているのです。こんなふうには言っているようにも感じました。そもそも子育ては母親だけが担うものではないでしょう。両親や社会が責任を持つものであるはずで

この国では、青少年が問題を起こしても、母親だけが責められることはないだろうな、と思いました。

わが国では、今年四月から、「女性活躍推進法」、正しくは「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が全面施行されました。

平成二十七年に制定されたこの法律は、常時雇用する労働者数が301人以上の事業主が対象でしたが、四月から101人以上に変更になったのです。基本原則には、

- ・採用と昇進が両立できる環境を作る
- ・仕事と家庭が両立できる環境を作る
- ・仕事と家庭の両立に関しては本人の意思が尊重されるべきであること
- ・などが規定されています。

同時に、「育児パパ休暇」など、男性の育児参加の法律も整備されてきており、遅ればせながら日本も、北欧の国々に近づきつつあるのです。

*

女性活躍推進法は、当法人に関するかぎり、いまさらの感があります。すでに昭和の時代から多くが達成されてきたからです。

当法人が特別に女性活躍の意識が高かったというわけではなく、子どもの福祉そのものが、今は廃止になった「保母」という言葉に代表されるように、女性の力を必要としてきたからです。

今一つの理由は、かつて貧しいが代名詞であった福祉の職場は、労働時間や給与などの待遇が一般より劣っている、「男子一生の業」にするには難があり、資格を取って就職を希望してくる人はほとんどいませんでした。いきおい女性が主体的に活躍せざるを得ない状況が生まれ、昇進や昇格だけでなく、彼女たちが安心して長く働き続ける環境を整える必要に迫られたのです。育児休業法を導入したのは、昭和六十一年のことでした。まだ一般企業には義務化されておらず、届出をした労働基準監督署でさえ、戸惑っていた記憶があります。法人内でも理解が得られず、初めはひまわり学園だけの導入になりました。そのひまわり学園でも職場挙げてのものにはなっておらず、取得した職員は、周囲への気兼ねも大きかったと思います。

あれから三十数年経った今は、育児休業取得がごく当たり前になって、常時何名かがこの制度を活用して仕事と育児を両立させています。近年になって、ハラスメントという

用語が始めました。セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントは納得できたのですが、マタニティ・ハラスメントには、わざわざ法で規定しなければならぬほど、妊娠や育児に対する世間一般の理解度は低いのかと思われました。

まだまだ道は遠いのかもしれません。

*

ここで当法人の職員の男女の比率を記してみます。

11月現在総職員数、208人で、

男 69人(33%)、

女 139人(67%)

と圧倒的に女性が多くなっています。常勤職員だけに限ると、男64人(40%)、女96人(60%)とその差は縮まります。

うち課長、児童発達支援管理責任者、サービスマネージャーなどの中間管理職は10人で、男5人(50%)、女5人(50%)となっています。

施設長・管理者・事務長などの管理職は9人で、男5人(56%)、女4人(44%)となっています。

中間管理職と管理職の男女比はほぼ半々で、バランスの良い配置と言えます。これであれば、どちらかに片寄った考えにはなりにくいからです。むしろ、各現場においては、女性の発言力が強いと感じることがしばしばあります。女性がのびのびと働いているのが、当法人の特徴と言えるのかも知れません。

かの北欧の国でも、女性議員の割合は当時で30%でした(現在は逆転している国もある)。当然のことに、女性の視点で物事が考えられ、施策に反映されていきます。冒頭の男女の働き方などその最たるものなのでしょう。

それに引きかえ、日本の女性の政治への参加率は、世界でも下位に属している、なかなか増えるには行きません。私自身は若い時から園長職に就いてきた関係から、女性初という役職や、行政の委員に就いたりしてきました。そうした場の女性はごく少数に限られていて、女性特有の考えが支持されるはずもなく、足を引く張らないようにとの意識がつねに働いていたように思います。今にして思えば、自分の意地なさを含めた力不足が反省させられるのですが、森元総理が、女性の発言を云々して問題になった、あの空気感

はよく理解できるのです。

その私が意思を貫いたのが、ひまわり学園の改築でした。電話中継所を再利用した園舎の環境はあまりにも劣悪で、その改築に園長として居合わせ使

命感から、子どもの生活の場としてふさわしい園舎を建てることに全精力を傾けていました。三十数年前、元号が平成に代わるころのことです。

ああでもない、こうでもない注文をつける私に、設計事務所の所長さんは「園長さん、あなたが住むんじゃないんだから」と言いました。「己が住むという思い入れがなくて、良い園舎ができるはずがないではないか」と私はあくまで強気をつらぬき通しました。そして当時としてはめずらしいユニット型で、カラフルな色合いの園舎を完成させたのです。プライベートの尊重などにこだわった分、工事費は補助金を大幅に上回りましたが、当時の生田原町が債務を負担してくれ、理想を実現させてくれました。

そんな経緯を語ったことがあり、それを聞いた某男性から言われました。「男だったら、決められた範囲の中でしか、やらなかったでしょうね」。

別の建築家からはこう言われました。「男は無難な色しか選べないんです」。

女であるから、世間の常識を無視できたんだと気付かされました。

けれどもあのとき、子どもたちのために己の意志をつらぬいて良かったと、今でも揺るぎなく思っています。

*

新型コロナウィルス感染症の世界的まん延は、丸3年を迎えようとしています。命の安全の前に、人々の働き方や暮らし方はずいぶん変わりました。

在宅の時間が多くなり、家族とのかわりが増え、家庭での時間を大切にすると、風潮が生まれました。

人を援助する医療や福祉の存在が、見直されてきています。命の大切さを一番に据える社会に生まれ変わろうとしているように感じます。

そんな中でロシアのウクライナ侵攻が始まり、世界はにわかに危機を知らんだものになりました。力が支配する時代が再来することを恐れます。

暗さと寒さの中で子どもを守るウクライナの母親。兵隊に取られた息子の安否が分からないと嘆くロシア兵の母親。こうした声が、もつともつと大きなものになってほしいと願うのです。

命を護るこうした女性の声が政治に反映されていたなら、恐らくこんな戦争は起こらなかったと思うからです。

人類の未来のために、もっと多くの女性が参加して、その発想や行動で、平和で、健全で、片寄りのない社会の実現を目指していつてほしい……。

女性活躍推進は、今、世界にこそ必要と感じています。

(了)

子どもの成長

保育士 安藤いづみ

初めての就職先が北光学園でした。右も左も分からず、今思うと何をやってたのか…。今の若い職員をみてみるとあの頃の自分が恥ずかしく思います。五年数ヶ月で退職したものの、その間に関わった子どもたちが、私にとって一番懐かしく思い出されます。その後、仕事をしていない時期もありましたが、夫婦で児童自立支援施設の寮を持ち、養護施設とは違った意味で難しい子ども達に戸惑いながら、どこかで養護施設を懐かしく思っていました。

今回、再び夫婦で学園にお世話になり四年近く経とうとしています。昔は、幼児であっても手のかかる子はほんのわずかで、かわいさが大きく大変だった印象はあまりないのですが、今は発達障がいの子の方が多く、一人一人違った関わりが必要です。昨日上手くいったとして、今日同じ事をしても駄目なことはしょっちゅうで、それを想像すると子どもに会うのも憂鬱になることさえあります。それでも職員に優しい声をかけてくれる子が必ずいて、どれだけ助けられたかわかりません。



幼いころの岩崎さん姉妹

学園で働いていると、自分の子にこれだけのことをさせるかなあとと思うことが何度もあります。朝、夕の掃除に毎週のお手伝いの時間…。入所している子もいろいろと不満を言ってくることもあります。ただ、子育てをしてみて、ここでの生活は絶対に無駄になることはないし、恵まれていると思っています。今すぐに思うことは出来なくても、施設を出た後、必ずそう思ってもらえるように関わっていかないとけないと感じています。

実践生が来ると必ず「子どもの成長

を近くで見ることができて、その分、やりがいがある仕事ですよ」と伝えていきます。子どもの成長に関わる以上、私自身も責任を持ち、子どもたちを見守っていきたくと思っています。

十六年間で振り返って

高校三年生 岩崎 知美

妹が一才、私が二才の時に私たちは北光学園に入所しました。その時の記憶は全くありませんが、夜中に二人で泣き叫ぶため宿直の職員さんは「今夜は泣かないで」と願いながら宿直をしていたとの事、毎晩のように泣いては職員さんを困らせていたようです。

入所二年目に私たち姉妹は市街の中にある地域小規模児童養護施設きずなホームに移動してきました。きずなホームは北光学園より建物は小さいけれど、一般家庭より大きく六人の子どもと職員さん四人の大家族でした。きずなホームの近くには福祉センター、スポーツセンター、保育所、公設グラウンドがあり近所の人たちと「おはようございます」「こんにちは」といつも仲良くして、私たち二人がお散歩に出かけると「かわいいね」「遊びにおいで」と優しく声をかけてくれて、時にはお菓子を頂きました。

私は好奇心旺盛で、よくお喋りをする三才の子で、静かなときは食べている時か、寝ている時、話し相手がない時にはテレビ台の鏡に映っている自分に向かって「私ってなんてちゅばらしいんでしょ」と一人お喋りしていたとの事、反対に妹はお喋りが苦手でした。私がお喋りして、妹の代弁をしていたようです。

きずなホームは私たちの他、四人のお兄さんお姉さんがいて、小さい私たちはとても可愛がってもらいました。

特に妹は本が大好きでお兄さんの膝の上で

「アンパンマン」を読んでもらっているうちに眠ってしまったとか、お出かけの時はいつも二人お揃いの洋服を着せてもらい、それがすごく嬉しかった事を覚えています。

そんな私たちも今は妹が高校二年生、私は高校三年生になりました。思い出は書き尽くせないほどありますが、私に自信をつけてくれた言葉は今でも忘れません。私は他の人と上手くコミュニケーションがとれなかったり、他の人より、手がのろく不安や焦りを感じていた時、その私に気づいてくれて「みんなと違っていいんだよ、今自分でやれることを一杯やればいい、マイペースでいいから頑張ろうね」と励ましてくれた職員さん、本当にありがとうございます。

小さい時から「笑顔であいさつ」「ありがとうの感謝の気持ち」「思いやりと気遣い」は、きずなホームの目標であり厳しくつけられてきました。今自分を振り返ると少しは身につけていると思っています。就職に向けて、前提実習が終わりましたが、「笑顔、真面目、素直さ」すべて評価が高く就職に内定をもらう事ができました。小さい時から子どものように育ててくれた職員さん、家族の一員として仲良くしてくれたホームの仲間たち、みんなの力で決まった内定です。感謝でいっぱい。きずなホームで育ってよかったと心より思っています。きずなホームは私の家庭であり家族です。いつまでもお世話になります。妹の事も宜しくお願いします。

一喜一憂しながら



保育士

宮本 芳

福祉の仕事に携わって十五年目となりました。その間に結婚し、息子が生まれ、転職とライフステージの変化もありました。その中で、家族を持ち、親としての責任の重さや大変さ、反面喜びや楽しさも学びました。

二十歳の頃に入職した時には、親の苦労は知識としてしか分かりませんでした。子が、子を持つことで、一人を育てるといことは並々ならぬことで、葛藤の毎日なんだと思いました。

そんな私から、ひまわり学園の子どもたちにもつわる二つの言葉とエピソードを紹介いたします。

その1「ごめんさい」

ひまわり学園は、子どもたちの育ちを助け、ご家族の助けもする役割を担っています。四十人弱の子どもたちが生活を送っている場所で、楽しく過ごせるときもあれば、互いにつつかりあうこともあります。職員が仲裁に入ることめずらしくありません。ある

日、意見の違いから言い合いになることがありました。その時も職員が仲裁に入り、それぞれの話を聞きました。子どもの一人が言いました。

「俺、謝りたいです。」

大人はよく言います。「謝りなさい」

「ごめんさいは？」これは相手との関係を修復するのに必要なきっかけであると思います。ですが、『謝る』という言葉を苦手としている人は少なくありません。大人だつてそうです。子どもたちに、なぜ謝ることが出来ないのか聞いたことがありました。

「謝ったら自分が全部悪かったということになる」「どう謝ったら良いかわからない」と答えてくれました。つまり謝り方を教えられていなかったから、どのように謝るのかわからなかったことが分かりました。

子どもたちには謝る事の原因や、謝り方、自分の思いの伝え方を教えました。何年も、何度も繰り返しながら。

このように、対人関係やコミュニケーションの取り方で困る感を抱くお子さんの入所が多くなりました。何も

教えられずに社会に出た時に、辛くなり、社会生活を営めなくなるのは目に見えています。児童期という多感な時期に、どれだけのことを学び、経験したかが重要となってくるのです。そうはいっても、児童期は思ってい

るより「あつ」と言う間に過ぎていきます。そんなかけがえのない子どもたちの時間の使い方を助けるのは責任重大で、しかも容易ではありません。

私たち支援者は、そういったことを忘れずに子どもたちの助けになるよう努める必要があります。

「俺、謝りたいです。」

これは子ども達の心の成長を見られた喜びの瞬間でした。何年も繰り返し伝えたことが実を結んだのです。子どもたちの時間を大事に育てた結果をもらえたように感じます。

その2「ありがとう」

ある日、Aくんのお母さんから学園に電話が入りました。Aくんと会話を楽しみ、その後どのような話をしたのか私に教えてくれました。

「Aがありがとうと言ってくれたんです。だから私はこう言っただんです。だから私はこう言っただんです。素敵だね。今、本をかってくれてありがとうと言ってくれたね。ママはありがとうと言ってくれたらまた買ってあげたいなって思うよ。素敵だったね、と伝えました。」

それを聞いて私も、Aくんのお母さんは素敵です。Aくんの事を称賛し、具体的にどのようなことが良かったのか理由も添えて褒めていました。

子どもはそのように褒められるとまた良い行動をとりたいたいと思います。ぜひ今後も続けてくださいと伝えました。

Aくんのお母さんも無意識に言っていたことでしたが、褒め方にも意図や工夫があることが分かったことで続けていきたいと話していました。

子育ては細かく誰かが教えてくれるとは限りません。専門的な知識を伝えることで親御さんの助けになつていけるようにしたいです。

「あつー雪虫だー」

園庭遊びをしている時に、子どもたちのだれかが言ったこの一言に、今年も雪が近いと頭に浮かびました。世界的にコロナウイルスが広がり、いろいろな場面で制限されることが多い中でも、確実に時は流れています。

子どもたちと過ごしていると、いろいろな発見が出来ます。一喜一憂しながらこれからも子どもたちが生きていく上での「応援団」であり続けたいと思います。



中庭であそぶ

向陽園

向陽園のステキな三人

さくらホーム

向陽園さくらホーム（女子ホーム）の塚田裕子さんを紹介します。

本人を含め、5名の方と一緒に生活をしています。

塚田さんにお話を伺いました。
・普段どのように生活をしていますか？

「ピアノとか、清掃とか。あと散歩」

・頑張っている事はありますか？

「ピアノと清掃」

（清掃は、園内の清掃活動に取り組んでおり、食堂や廊下の掃除をしてくれています。）



ピアノ演奏中

「ピアノは新しい曲をひきたい。あとクリスマスにひきます！」

（ピアノはクリスマス会で「きよしこの夜」を弾いたことがあります、今年も弾く機会があるかわかりませんが、本人はとても楽しみにしています）

・好きなことは何ですか？

「テレビ、人生歌ありとかみている。あとは、手紙みんなに書いています」

（手紙はご家族や、職員へも書いてくれ、お手紙が届くといつもほっこりとした気持ちにさせてくれます）

・最後に一言お願いします

「これからもピアノがんばります！」

かえてホーム

向陽園のドラフト候補ナンバー1と川地毅さんをご紹介します。

川地さんは人と関わるのが好きで、いつも気さくに職員に話かけています。ごはんの献立の事や、その日の活動の事など話題は豊富で、楽しそうに日々を過ごしています。

特に野球が大好きで、野球の本を持ち歩いて職員に見せてくれたり、職員に声を掛けて一緒にキャッチボールをする事が楽しみです。川地さんはとても上手で、職員の投げる速い球を難なくキャッチして、伸びのある剛速球や高いフライ、曲がる球など色々な球を投げる事が出来ます。日々の活動でも、



キャッチボールを楽しむ川地さん

的当てや玉入れが上手で毎回好成績を出しています。

その他にも絵を描く事が好きで、気に入っている場所で、好きな時間に職員と会話をしながら気ままに描いています。特に人の顔を描くのが得意で職員やお母さんの顔を描いて色んな人に披露しています。これからもいろんな人と沢山話をして、好きな事に取り組み、いつまでも若々しい川地さんを目指して欲しいです

しらかばホーム

向陽園の最年長者である93歳の三沢隆です。

向陽園での生活の楽しみは沢山あります。まず、時間があるとちぎり絵や塗り絵を行っています。ちぎり絵では海外（フィンランド）に作品を出した

りする事もあります。元気な限りこれからもちぎり絵や塗り絵を行っていきたいです。

又、食事でも楽しみで鍋やバイキングが楽しみです。私たちが参加する給食会議もあり、自分の食べたい物、嫌いな物、要望を言えます。お酒を飲める事も楽しみで、週に1回お酒を飲んで楽しんでます。

健康のため散歩やレクリエーションに参加し身体を動かしたり、口腔体操を行ったりしています。健康面で心配な事はありませんが、向陽園の看護師が診てくれるので助かります。

今は、遠出や旅行には行けません。早く旅行に行って楽しんだり、これからは兄弟に会えるようになる事も楽しみにしています。（文責 金沢健二）



展示会で受賞した作品と記念写真

コロナ集団感染を経験して



サービス管理責任者
大杉 潔

日頃、地域生活支援パオの居住系サービスであるグループホームの運営にご高配を賜り厚く御礼申し上げます。パオの居住系サービスの一部門である「ゆめいく」には7つのグループホームがあり、31名の利用者が生活しています。それぞれグループホームには名前がついていますが「ゆめいく」とは、それらをひとまとめにした呼び名となっています。

ゆめいくでは、11月4日から利用者数名の発熱があり、発熱外来を受診しました。結果、新型コロナウイルス陽性の診断を受けました。その後も感染者は増え、最終的に6つのグループホームで利用者15名が陽性となりました。11月27日に最後の陰性確認（利用者）をし、無事終息しております。

感染対策には十分注意を払っているつもりでしたが、利用者の約半数がコロナウイルスに感染した形となりました。ゆめいく利用者や職員が感染源ではなく、他からもらってきてしまった、

被害を受けた、感染したという表現をします。

ご家族の皆様にも多大なご心配をおかけした事を、紙面にてお詫びいたします。

今回コロナウイルス感染を受けた印象は、「感染力が強かった」という事です。またグループホームが点在している事、一般家庭のような設備などから「支援物資の供給」や、食事提供、入浴、排せつなどで「業務の分担」や「厳格な隔離」が難しいといった課題を感じました。

陰性の利用者も自宅で隔離生活をしていましたが、次から次へとホーム内の利用者へ拡がってしまいました。

しかし、利用者さんの発熱は3日以内に平熱に戻り、食欲も落ちることがありませんでした。また高齢の利用者も感染しましたが、全員重篤な状況にならず、無事終息を迎えました。

働いている側としては、感染ホームに勤務した職員が感染し、9名の職員が自宅療養となり、人手が足りない状態となりました。次の日に勤務する人を、前の日に調整するという状態が続きました。しかし2年前、向陽園がコロナウイルスクラスターになった際に日中活動事業所が休業した時と同じように、遊友やすくにの3事業所の職員が応援に入る事で、利用者の生活を守

る事が出来ました。

感染した職員についても、11月25日に最後の陰性確認をし、1人も欠けることなく業務に復帰しております。

応援職員が入る事により利用者さんに戸惑いはあつたものの、職員側としては普段は日中しか見られない利用者の様子を、1日通して見る事で新たな発見をしたり、グループホームでの問題を気づかせてくれたりなど、お互いの事業所で良い刺激となりました。

また、今回の感染を教訓とし次へ生かすため、パオ全事業所対象で緊急の感染症対策の研修会を実施しました。

遠軽駅前新しくできた「遠軽町芸術文化交流プラザ」メトロプラザを会場に、法人内施設の看護師を講師に迎え、防護服やグローブを実際に着用し、脱ぎ着や吐物の処理など実技を中心に、感染症対策の「振り返りの研修」をしました。参加した職員一同、防護服の着脱に苦戦しながらも、今後の感染対策のツボを確認できたと思います。

この研修会を通しグループホームの問題点を改善すべく、衛生対策用品や飛沫対策など、今まで弱かった部分の改善にも着手し、食卓上にパーティションの設置なども行いました。

残念ながら2日目については諸般の事情で延期となってしまいました。重要な事案であるため機会をつくり実

施する予定です。

地域生活支援パオは、居住系、日中（通所）系のサービスを提供し、事業所数・利用者数・職員数も多いです。今回は職員数が多いという、地域生活支援パオならではのスケールメリットを生かし、コロナウイルスの感染を乗り切る事が出来ました。

これからも利用者が安心して生活していけるように、職員一同サービスの提供をしていきますので、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



感染防止の研修風景



ホームでの感染対策

共に楽しむ活動を



生活支援員

菊地 里奈

「ここはパオの治外法権ですね！」

縁日行事の後での、管理者の言葉に、心の中で「パオの無法地帯めざします！」と思ったのは、悪ふざけが過ぎたかなと感じつつ、実は常に「利用者さんは、何をしたら驚いたり笑ったりしてくれるかな」とプチイノベーショナルなことをスタッフ一人ひとりが考え、利用者さんまでもがスタッフにアイデアをくれる場所。

それが「遊友やすくに（通称・やすくに）」です。

やすくにでは、帰り際に「今日一日楽しかったな」と思ってもらえるような場所を目指し、日々活動をしています。歴代の先輩方から受け継いだ「職員も楽しければ利用者さんも楽しいから」という精神を大切に、そんな毎日を体験できる場所でもあります。

夏は野菜などを育て、秋に収穫。そして最後はカレーライスにして。その他にも、取れた芋やカボチャ団子にする「おやつ作り」も行いました。

近年では、音楽活動やゲーム、アート活動にスポーツなど、数にすれば結構な種類の活動を行っています。ゲームは大体投げるか転がすか落とすかになりすぎていますが、工夫し、メリハリあるものになっています

そんな日々の活動の原動力は、スタッフの「これやってみたい」や、利用者さん間のブームだったりもします。そのエピソードを少しだけ紹介します。一昨年のクリスマス、ビンゴ大会で「電卓」を手に入れた方がいました。もっと欲しいものがあつたのにと残念がっていましたが、粕谷支援員が、お手製の計算プリントを用意したところ、電卓計算が楽しくなり、いつの間にか数名が電卓を用意し、朝からカタカタとドリルを解く流れに。

遊びの一環として「算数」が加わりました。答えが合っているか、合っていないかはともかく、笑いながら、皆さんはとても楽しそうです。

そして、コロナ前は、大森支援員による、フルートでの朝のプチ音楽会が好評で、いつのまにかみんな集まって、一緒に歌ったり、楽器を持ってきて弾いたり、たたいたり心地よい贅沢な空間が広がっていました。

コロナ禍で、一旦ストップとなってしまいましたが、現在は、「写経」（薄く書いてある難しい漢字の羅列を筆ペ

ンでひたすらなぞる。塗り絵付き）に切り替わりました。にぎやかで心地よい朝が、凜とした精神統一の場みたいになっていきます。

あらかじめ設定された活動のほかに、余暇時間もあり、それは皆さんの「自由」に任せています。

のんびりお茶を飲む人、家から持ってきた手芸道具で小物を作る人それぞれです。自分のペースで好きなことしたり、新しい何かにチャレンジするきっかけにもなっています。

最後に、やすくにの忘れてはいけない活動の一つとして「イベント」があります。

計画的には行うのですが、例えば「やすくにカップ（パークゴルフ大会）」は、4年目を迎え、ようやく行事らしくなってきたところです。全員（利用者さん、スタッフ

も）のパークゴルフの様子を観察し、ハンディキャップを微調整し、だれが優勝してもおかしくない大会です。

そして、今年度は行事にはしなかったものの、コロナの影響で外出はおろかお祭りに行けていない

という利用者さんから「ヨーヨー釣りをしたいなあ」という眩きを聴き、急遽「縁日」開催となりました。

「買い物も行けていないよね」ということで、同時開催の「ファッションセンターやすくに」では寄贈された衣類のお買い物ごっこを実施。

その他にも射的、くじ引き、かぼちゃ餅屋、ピンポン玉すくいなどお祭り会場を再現。特に、ファッションセンターやすくにと、射的に人気が集出し、大いに盛り上がりました。

まだまだ、紹介したいことが山のようにはありますが、一度、事業所にお立ち寄りいただけるのも一番かもしれません。

やすくに一同でお待ちしています。



ファッションセンターやすくに。女性に人気！



収穫した野菜でカレーを作る

「明日来る?」



生活支援員
遠藤 光枝

毎日帰り際に、「明日来る?」と声を掛けてくれる利用者さん。「来るよ」と答えると、うれしそうに笑顔を見せてくれる。その瞬間が癒しでもあり、明日も頑張ろうと思わせてくれる瞬間です。

今年4月に、遊友えんがるに異動になり、利用者さんの名前しかわからない状態で、毎日が未知であり、必死に利用者さんと関わり、あつという間に8ヶ月が経ちました。気が付けば、外は雪景色で今年も残りわずかとなり、少しずつ利用者さんの特性や行動がわかり、コミュニケーションが取れてきたと感じ始めた今日この頃です。

生活介護事業所・遊友えんがるの利用者さんは、上は90歳、下は20歳と年齢層が幅広く、男性13名、女性9名、計22名が利用しています。

活動は主に、午前中は体力維持も兼ねた「散歩」がメイン。

年齢や体力に合わせ4グループに分かれていたため毎日全員が行けること

はありませんが、事業所周辺である南町地域の四季折々の景色を眺めながらほぼ毎日散歩しています。

散歩は、利用者さんに、行きたい場所、行きたい方向を選んでいただきながら行い、公園での休憩では、ブランコや滑り台を楽しむ利用者さんの無邪気な姿や笑顔にほっこり、ほんわかしたひとときとなります。

午後の活動は、アート・ゲーム・DVD鑑賞・カラオケと、マンネリ化を避けたいところではありますが、事業所の建物構造の関係もあり、活動が限られ、毎回決まったプログラムになっているのが現状ではあります。

しかし、利用者さんが「できること」「楽しめること」を試行錯誤しながらプログラムを作成し、できるだけ新しいことにもチャレンジし、利用者さんの出来ることを増やせたらと考えています。

今年は、しばらく行っていないなかった「音楽活動」を再開して、新しい曲にチャレンジし、トーンチャイムの綺麗な音色を奏でています。

コロナ禍でなかなか発表する機会がありませんが、日々練習に励んでいましてので発表の場が確保されることを願っています。

活動の人気ナンバーワンは「カラオケ」です。曲目はもっぱら演歌が主流

であり昭和の演歌(365歩のマーチ等)が流れています。時には利用者さん皆さんでかけ声などと盛り上がりする一時もあります。

行事は、毎年実施している春と秋の「お花見」、毎月行っている「誕生会」や「敬老会」等、毎月の誕生会のほかに行事に取り組んでいます。

特に、今年の秋のコスモス花見は、生憎の雨ではありましたが、藤井管理者も同行し、大杉副管理者がバス運転のもと「まごころ号」にて全員で行くことが出来、雨ながらも見頃を迎えたコスモスを車窓から眺め、車中では「綺麗だね」などと山の上にある見晴牧場までと、ちょっとした遠足気分を味わえました。

また、事業所内でも、お祭り(屋台をイメージし「秋のお楽しみ会」を行い、「射的」「ヨーヨー釣り」「お菓子釣り」「ストラックアウト」を実施し、お祭り気分を存分に楽しみました。

コロナ禍で、行事は、以前と違い遊友えんがるのみの単独行事ではありませんが、小さくとも温かく、利用者さんが楽しめ、たくさん笑顔を引き出せるよう行事の提供をと、支援員間でアイデアを出し合い工夫し、計画をしています。

なにより一番は、利用者さんが「楽しむこと」。「明日も遊友へ行きたい!」

「遊友たのしい」と思ってくれることを願い、試行錯誤の毎日ではありますが色々な提供を行っていきたいと思っています。

今年も残りわずかですが、毎日楽しく利用者さんに勉強させてもらいながら支援員として、人として成長していったらと思う日々です。

「明日来る?」
とこれからも毎日言ってもらえるように、待っていてももらえるように……。



コスモスの花見 気分は遠足!



秋のお楽しみ会

就労継続支援B型・遊友はたる

地域の活動に参加して

職業指導員

大累 悟



今年度の遊友はたるは、「地域の方々との交流を図り、地域に貢献できる活動に参加する」を目標に掲げました。いくつかの活動を紹介いたします。

目標を掲げた4月どのように動き出せば良いか検討するなか、まずは、この地域にどのような活動があるのか情報収集から始めました。なかなか見つからないまま時間が経過していた6月初旬、折込チラシの中に、遠軽商工会議所主催「街なか賑わい創出事業 遠軽駅階段の絵描き作業 ボランティアスタッフ募集！」の文字が目飛び込んできました。

「これは楽しそう！」と、女性スタッフの強い要望もあり、即参加する事を決めました。作業内容は、遠軽駅階段（2か所）コスモスの絵の修復（1日1か所ずつ）。

ただ、遊友はたるは就労継続支援B型事業所です。一年を通して木工作業、夏場は畑作業と利用者さんそれぞれの作業があります。その合間に参加する

ため時間は短いのですが、こちらの事情を遠軽商工会議所担当の方より快い返事をいただき参加が決まりました。

当日、スタッフ2名が2日に分かれて1時間半程、2名ずつの利用者さんとともに参加。本当は、多くの利用者の方々に参加が望ましかったのですが、感染対策のため少人数になりました。

駅に到着すると、階段にはコスモスの絵の輪郭が描かれてあり、その輪郭の中に決められた色の塗料を塗っていきます。利用者の方は、普段、紙やずりで木工の磨き作業をおこなっていて刷毛で色を塗ることはあまり慣れてはいませんが、集中して丁寧にゆつくりと色を塗ることが出来ました。

また、ボランティアの参加者たちが利用者さんに声を掛けて下さり、塗りを教えていただきながら一緒に作業を行う光景も見られ、とてもうれしい気持ちになりました。

描き終わると記念に自分の名前を階段に記し、記念撮影をして終了です。遠軽駅を見ると、まずは階段に描かれているコスモスの絵が目に入ってきます。その絵の中に、遊友はたるの利用者さんが描いた絵もあることを見るたびに思い出しています。

*

7月27日、太陽の丘えんがる公園コスモス園の「草取りボランティア」に

は、6名の利用者さんが参加して来ました。

コスモス園は、毎年コスモスフェスタで出店させて頂いてお世話になってる場所です。昨年までコロナの影響で開催が中止していましたが、今年は3年ぶりの開催となり多くの方がコスモス園に訪れてくれました。

そのコスモス園の草取りボランティアに初めての参加でした。

当日、太陽の丘管理棟にて担当職員の方から草を取る場所と取る方法を教えていただき草取りを開始。参加した利用者の方たちは、はたるで畑作業をおこなっている方たちなので、一度の説明で内容を把握して黙々と作業をおこなっていました。1時間半程の活動時間でしたが、皆さん体を動かすことが好きな方たちでしたので、あっという間に時間が過ぎて終了しました。次回も「参加したいなあ」との声も聞かれました。

そして10月3日、同じく太陽の丘えんがる公園コスモス園の「種取りボランティア」にも参加して来ました。

こちらも初めての参加となり、それぞれ午前と午後に分かれて、5名ずつの利用者の方（計10名）が種取りをおこないました。

種の取り方を教えてもらいコスモス畑へ移動してから枯れた花から種を取

り出していきます。初めての作業なので最初は慎重におこなっていましたが徐々に慣れて来て手際よく種を取ることが出来ました。みなさん黙々と作業を行い多くの種が取れたと思います。取った種は太陽の丘管理棟に渡して終了です。集めた種は、来年コスモス園にきれいな花を咲かせてくれることでしょう。

新型コロナウイルスの感染が続く中、遊友はたるは3週間程の休業を余儀なくされました。

今も地域活動や交流を図ることが難しい状況が続いていますが、今年少しではありますが活動に参加出来たことが大きな財産になったと感じています。今後もう少し歩幅は小さくとも一歩一歩前へ進みながら、地域に貢献できる活動や、交流を図れる活動を続けて行きたいと思っています。



草取りボランティア



遠軽駅絵画作業
ボランティア

沢山のスキルを身につけて



児童発達支援
管理責任者

谷 千洋

くれよんは、幼児7名、小学生29名、中学生5名、高校生5名、全体で46名のお子さんが利用しています。利用は、それぞれ曜日を設定し、週に1回から、毎日通われている方もいらっしゃると思います。

くれよんの中では、毎日子どもたちの「はい！」「わかりました！」「スキル練習おねがいます！」という元気な声、そして、職員の「えらいね！」「すごい！」「よく頑張ったね！」という言葉が、あちらこちらで飛び交っています。

これは、それぞれ子どもたちが設定された社会スキルを、実際に使ってほめられている場面です。こんな肯定的な言葉が飛び交うくれよんは、とても温かく、居心地の良い環境です。互いに褒め、認め合うことのできる場所に成長していく子どもたちの姿を間近で感じることができ、驚かされること、そして一緒に喜びを分かち合うことができます。

子どもたちは、1つから2つ自身身のスキル目標を持っています。一人一人に合った必要な社会スキルを職員全体で話し合い設定しています。それができるようになることを目標に日々、職員と練習を重ねています。

スキルが達成したときに「お祝い会」を行い、喜びをみんなに分ち合います。内容は、達成した子の入場、表彰、みんなからお祝いの言葉、記念撮影、退場となっています。記念品として、みんなが大好きなお菓子のプレゼントを用意して、最後に配ります。

子どもたちは、恥ずかしがりながらも表彰される喜びを噛みしめ、会に参加しています。自信にうちあふれた表情に、ほめられ、認められることの大切さを、改めて強く感じる瞬間です。

しかし、注目されたり、ほめられることに慣れておらず、参加することに抵抗を示すお子さんもいます。これまでも、そうした経験をしてこなかったため、うまく受け止めることができないようなのです。ほめられるにも、練習が必要なのだと感じます。

どんなお子さんも認められ、ほめられ、自分らしく生きることのできる場所が必要です。沢山のスキルを身につけ、将来出会う場面で、沢山の人々と良好な関係を築き、幸せに暮らしていくことができるよう子どもたちを支援

えていきたいと心から願っています。くれよんでは、当たり前前にこの支援が行われていますが、簡単なものではありません、子どもたちの努力と、それを支える職員やご家族がいるから、成り立っていることです。

毎月会議の中で、くれよん・めるくる運営の基本理念としている次の言葉の読み合わせを行っています。

1、子どもに寄り添い、環境を整え、受容・共感し、愛情をもって励まします。(この言葉がいつもくれよんの中心にあります。)

2、子ども1人ひとりに適正な期待値を持って、正しい行動を教え、心から励まします。(大人と子ども間に差があれば、互いに辛い状況が生まれてしまいます。子ども側の視点に立ちものごとを考えていくことを忘れてはいけません。)

3、職員同士で互いにSCALE(スケール)を持って関わり、報告、連絡、相談をします。(子どもたちやご家族だけでなく、職員同士も支え合うことが、良い支援につながっています。)

4、ご家族と子どもの成長を共有します。(子どもを支援する上で、忘れてはいけないのが、ご家族です。子どもだけでなく、ご家族の皆さんを

支えることを大事にしています。お父さん、お母さんが笑顔になることで、自然と子どもたちも笑顔になる。それは私たち職員が1番目指していることです。)

5、学校、市町村、児童相談所等、関係機関と連携を密にします。(くれよんだけではお子さん、ご家族を支えることは困難です。地域全体でお子さん、ご家族を見守っていく。この言葉を合言葉に、この地域の一員として、沢山のご家族の支えとなっていくしたいと思います。)

この理念を忘れず、これからも丁寧に子どもたちやご家族、関係機関と向き合っていくことを大事にしていきたい。そしてこれからも、皆さんと一緒に成長をしていくことのできるくれよんでありたいと思います。



『お祝い会』をしています

児童デイサービス・めるくる

成長の喜びを共有しながら



保育士

荒谷 涼音

めるくるは、佐呂間町にある放課後等デイサービスです。小学校1年生から高校3年生までの発達の心配や、困り感を抱えているお子さんをお預かりし、送迎サービスを伴う支援を行っています。現在、約19名が登録、利用されています。職員は、常時2名体制で平日、祝日に営業しています。

めるくるでは、保護者学習会や茶話会を通して、保護者への支援や、保護者同士のつながりや交流の機会を持つたり、各学校・町役場・病院等と連携を図りながら支援を進めているのも特徴です。

めるくるを利用していらっしゃるお子さんの中には、ほめられ、認められる経験よりも、注意されることが多く、「どうせ僕なんか……」と自信を失くしているお子さんが多いです。また、上手く気持ちを言葉にできずに、手が出てしまったり、伝える方法が知らなかったことで、わかっても伝えなかった「言ったってどうせムリ」と伝えるこ

とを諦めてしまうことがあります。

職員は子どもたちの気持ちや状況を確認し、「こう伝えたかったのかな」と言葉にし、受け止め、気持ちを伝える方法を教えていくことを大切にして関わっています。

また、子どもたちが当たり前のようになっている良い行動（例えば、靴を脱いだらすぐに片付ける、挨拶をする等）に着目し、良かった行動を具体的に伝え、ほめることを意識して関わるようにしています。

ひとりひとりに合った目標を決めて取り組み、ちよつと頑張ったらできた、ほめられた！と子どもたちが少しずつ自分に自信を持てるような関わりを目指しています。

例えば、片付けが苦手だったお子さんも、「片付けてねと言われたら、すぐに「わかりました」と言って片付ける」練習を毎回2回ずつ行い、具体的にできていた行動を伝えてほめ、ポイントをもたらえるようにし、できなかつた時にはもう一度練習することを続けました。継続したことで少しずつ片づけられる回数が増え、今ではポイントをもたらえることを楽しみに、タイ



「めるくるの建物」
(佐呂間町役場近くにあります)



ハロウィーンの様子

マーが鳴ると自分から片付けることができるようになりました。

子どもたちの成長を近くで見ることができ、その喜びを保護者や職員同士で共有することで、私たちも仕事に向かうパワーをもらえています。

日々、子どもたちと向き合っている、お母さんお父さんへも、送迎でお会いできるわずかな時間を大切にして、子どもたちの成長を共有し、子育ての大変さに寄り添い、ご家族のがんばりを労うことも大切になっています。

職員も子どもたちと一緒に楽しみながら遊び、遊びの中でお友達と楽しく関わられた経験を増やせていけたらというのが願いです。子どもたちが「楽しかった、来て良かった」と感じ、ご家族も「通わせて良かった」と思ってもらえる『めるくる』であるよう、これからも学び続けたいと思っています。

児童デイサービス・ぱすてる

ぱすてる 秋の陣

児童発達支援管理責任者

山口 香織

湧別町図書館に併設されているぱすてるには、現在、幼児19名、学童33名、全体で52名のお子さんが登録して、利用しています。

秋が進んで日が短くなり、町はコロナ感染症の広がりでてんやわんやです。誰もがいつ「コロナですよ。」と言われるかもしれない毎日の中で、ぱすてるも、利用制限や自粛ムードが高まり、気分が落ち込む毎日です。

そんな中でも10月末には楽しみにしていたハロウィンがありました。何時もなら、図書館の人や町の人と交流しながらお菓子をゲットしますが、今年は事業所の中で楽しみながらの時間となりました。中でも幼児さんは一人で探し物を体験しました。

・月曜日……みんな20枚のカード無事に探し、お菓子と交換できました。

・火曜日……なぜかカードは19枚しかありません。

・木曜日……ひとりの利用でしたが、最後まであきらめなかったYちゃん。4回目のトライで何と消えた一枚を

見つけることができたのです！

職員の方が喜んでしまい、少ない人数のなか大騒ぎでした。子どもから学んだ、あきらめない姿勢。今年の秋も身に沁みます。

ちなみに学童さんは、お友達を言葉で誘導しながら、本物のカボチャを見つけていく、というルールでそれぞれ楽しみながら秋の時間を過ごしました。非常に盛り上がっていました。

自分もハッピーに！、そして誰かもハッピーにできる子どもたちです。



ばすてるの建物と外でのお誕生日祭



山口児発管

ホームヘルプ・ぱれつと遠軽

利用者に寄り添いながら



サービス提供責任者
佐藤 昌生

ぱれつと遠軽では、グループホーム燦ホームの利用者、在宅の方が利用され、入浴や外食、買物、図書館利用等様々な外出、また、通院を希望される方の通院介助なども行っています。

利用している方の笑顔を見ると、支援しているヘルパーとしても楽しい時間を共有できる喜びがあり、逆に悩みを抱えている方には徹底的に寄り添い、一緒に悩んだり、思いを共有することも大切に行っています。

基本は利用者の方と1対1の支援となりますので、ぱれつと遠軽を利用していたり、ご本人の要望やペースを尊重しています。とはいえ、自分で意思を伝える事が出来る方は良いのですが、課題となるのは意思を伝える手段を持たない方です。

その場合、近くで見ているご家族やホームの職員の方に楽しみにしている事や、好きな食べ物などを聞いて支援に役立てています。

しかし中には、利用中、笑顔が全く

見られない方もいらっしゃいます。

原因としては、単純にヘルパーの支援が悪かったのか、その日、面白くない事があったのか、それとも生活環境の変化からなのか、様々な理由が考えられ、思い悩むこととなります。自分で訴える事が出来ない以上、こちらで答えを探しますが、環境面の変化となると簡単な事ではありません。

ここ数年であれば「コロナ禍」で外出や帰省が思うようにできなくなったというの大きな要因と考えます。ぱれつと遠軽も臨時休業したり、外出先の制限を余儀なくされたりすることがありました。数ヶ月ぶりに利用したら以前とは利用中の行動が全く変わってしまったという方もいらっしゃいます。

ずっと信頼関係を構築してきても、数ヶ月利用しなかっただけでこのような変化が起きてしまうのは大変残念な事ですが、また、一から関係を築くしもあります。

まだコロナ禍が終わる気配はありませんが、今後も感染対策を怠らず、利



遠軽図書館で過ごす

用される方が「楽しい」を共有できるような支援をできるように精進していきます。

パオ遠軽の事務所はどこ？

7ページから紹介してきた事業は、地域で暮らす人を支える事業所で、総称して「地域生活支援パオ」と呼んでいます。本部事務所は町内安国の法人本部内（ひまわり学園内）にあります。出張事務所として遠軽町西町に「パオ遠軽」を設置しています。

ぱれつと遠軽のほかに、相談支援室ま〜ぶるもここに入っています。

ぱれつと遠軽の利用や施設・事業所の利用、あるいは在宅や地域生活をしている方で相談したいことがある方は、どうぞお気軽にお立ちよりください。



パオ遠軽の建物。
後ろはがんぼう岩



建物看板

御芳志のご報告と御礼

令和四年七月一日から、令和四年十一月三十日までの間に、次の多くの皆さまから法人事業あるいは施設などを利用してほしい子どもや利用者のために役立ててほしいとの趣旨でご芳志をいただきました。誌面を通じて厚くお礼を申し上げます。(敬称略・順不同)

寄付金

《北光福祉会》

匿名希望(遠軽町) 野田勅子(音更町)
合計 110,000円

《北光学園》

米内山邦子 服部憲尚 橋本政司
青野シマ子(以上遠軽町) 羽賀商店
土田浩子(北見市) 清水水町更正保護
女性会(小清水町) 田中齋(弟子屈町)
永澤則次 永澤寛樹(美幌町) 北海道
共同募金会(札幌市) 横瀬兼二 坂本
健 佐藤彰洋(東京都) 肥後剛(和光
市) 篠崎ひろみ(海老名市) 佐藤充
重(北九州市) 匿名希望
合計 1,427,000円

《ひまわり学園》

(株)工藤電機(遠軽町)
合計 500,000円

《向陽園》

六車潔(遠軽町) 塩田久子(網走市)

後藤さよみ(士幌町)

合計 215,000円

《燦ホーム》

土門善弘(佐呂間町) 星屋泰賢(士
幌町)
合計 1,030,000円

寄贈品・ボランティア

《北光福祉会》

北海道療育園(旭川市) 福祉ファミ
リー 大友福祉振興財団(以上札幌市)
鳥巢みち子(佐世保市)

《北光学園》

雲龍真弓 堤茂樹 米内山仁 太
田好子 菅野由美子 山本峯久 黒川
早苗 高橋豊恵 杉本一幸 橋本正子
大泉勝義 橋本政司 ぼっぼや 仁木
一好 亀田商店 吉田久子 村山宮司
横山農場 渡辺邦子(以上遠軽町) 松
本真尚 遊技業協同組合 岩崎勝美
北見トヨペット(株) 片岡理恵 菊池秀
夫 森良子 土田浩子 長谷川育子 原
田典朗(以上北見市) 花岡美和(佐呂
間町) 中川哲夫 近藤征一(以上湧別
町) (株)ながさわ(美幌町) 福井紗耶
佳 小倉勇(紋別市) 高橋繁和(興部
町) 平田実(深川市) 小松グラフィ
アラナ(標津町) 山本秀勝(旭川市)
東川町農業協同組合(東川町) 佐藤敬
子(豊富町) 佐藤東樹園(増毛町) 秋
元オーナー(歌志内市) 高藤博昭(中

標津町) 加賀人美(釧路市) (株)佐藤

製材工場(斜里町) 鳥浜恵利子(江別

市) 天野翔一(有)オーケー自動車販売
大友福祉振興財団(以上札幌市) 米内

山泰政(函館市) (株)ファーストリテイ
リング (株)フレールベル館 松沼豊(以

上東京都) 齊藤正七郎(桐生市) 岩
波敏之(新潟市) 二俣正光(流山市)

(株)光陽社 田中憲一(名古屋市) 大橋
景子(羽島市)

《ひまわり学園》

葛木和広 会田勝男 (株)東伸 長谷
川善美 森谷権三(以上北見市) 小山
広明 茶木建設(株) 大湧工業(株) 細野
石油(株) 秦野商店 小西商店 小川藍
安国中学校 工藤克哉 湯浅民子 北
見トヨペット(株) きずなホーム 本田
典子 山本珠江 (株)工藤電機(以上遠
軽町) 今村由美 オホーツク総合振興
局(以上網走市) ばすてる 中川哲夫
松原祐治(以上湧別町) 柿崎有美(旭
川市) 北海道紋別保健所 山口香織
(紋別市) 中井雅幸(帯広市) 石井宏
和(大空町) 星屋泰賢(士幌町) 阿
部理美子(江別市)

《向陽園》

アオイケ(株) 大湧工業(株) 細野石油
(株) ひまわり学園 北光学園 國分美
樹 佐藤富枝 小林幾子 鈴木由美子
花山幸 工藤克哉 湯浅民子 櫻井友
幸(以上遠軽町) (株)東伸 飯田壮一
佐藤宏士 川森修二(以上北見市) 石

川きよみ 中川哲夫(以上湧別町) 石

井礼子(置戸町) 滝口貞子 水野知一

郎 山口香織(以上紋別市) 馬場洋子
(訓子府町) 西澤利秀(小清水町) 三

澤勝(東神楽町) 後藤さよみ 後藤正
弘(以上士幌町) 途中政和 鍋田正勝
(以上札幌市) ワタキューセイモア(株)

《遊友やすくに・遊友えんがる》

三浦美知子 横井サツ子 佐藤恵子
井筒ひとみ 工藤克哉 林明男 温盛
幸治 大崎喜代志 坂本二三夫 梶田
伸男 伊藤美千子(以上遠軽町)

《遊友ほたる》

工藤克哉(遠軽町) 鈴木美智子(湧
別町) (株)ニチノ 小川和彦(以上札幌
市)

《ゆめいく》

佐藤昌生 長屋久美子 佐藤ゆかり
榎本英雄 泉秀一 長岡春三(以上遠
軽町) 岡本千代(訓子府町)

《燦ホーム》

我妻香苗 千葉美佐世 有倉リヨ子
阿部豊子 中津一雄 柏谷貴文 原田
広和 西原弘 花山幸子 清水直人
鏡栄子 福田進 高橋捷史 辻深雪
仲野スミ子 張江(以上遠軽町) 土門
きみえ(佐呂間町) 安彦好子(湧別町)
楠目広志 原マキ子(以上美幌町) 今
本勲 会田勝男 西田光子(以上北見
市) 山下常男 白田和博(以上紋別市)

森岡陽子(滝上町) 内海恵子(網走市)
菱木富美子(斜里町) 森田孝俊 森田
初江(以上別海町) 加藤政伸(苫小牧
市) 黒川京子 菅野政美(札幌市)

《センターもね・スペースもね》

京谷再生紙業 小林幾子 安西貴美
子(以上遠軽町) 八百坂幸一(以上湧
別町) 廣島真美 山下常男(以上紋別
市) 加藤政伸(苫小牧市)

《サン・コロネ》

宮本 芳 湯浅民子 長谷川光夫 工
藤克哉 佐藤恵子 藤井康成(以上遠
軽町)

《くねよん・めるる》

高嶋正則 山下大輔 國松大輔(以
上遠軽町) 惣田譲治 長澤耕之輔(以
上佐呂間町)

《papa's》

高井哲也 松尾淳司 工藤美津子
小林由美(以上遠軽町) アサヒ食品工
業(株) 福本愛美 高橋ゆかり 湧別社会
福祉協議会 中尾 松下(以上湧別町)
村上史恵 早瀬香織(以上紋別市)

《ほろこし遠軽》

村川弘美 安村まり子(以上遠軽町)

《ま〜むら》

塗師紀子(遠軽町)

後援会だより

令和四年七月一日から、令和四年
十一月三十日までの間に、北光学園後
援会及びひまわりの里後援会に、次の
皆さまから会費・寄付金等のご芳志を
いただきました。ご協力に心から感謝
し、誌面を通じて厚くお礼を申し上げます。

(敬称略・順不同)

北光学園後援会

瀧本玲子 以西善一 田中文章 加
藤幸徳 渡邊公久 上野壽男 寺田 貢
吉川産業(株) 遠軽信用金庫生田原支店
高橋秀人 亀田光次 福家 貢 平栗建
設(株) 橋本政司 佐藤洋哉 多賀憲雄
(株)渡辺組 湯浅民子(以上遠軽町) 佐
野琢(湧別町) 北新サッシ工業(株) 小
西工業(株) (株)富田通商 小柳亭信 浅
井春雄 遠藤和子(以上北見市) 石澤
信勝 後藤哲也 石澤勝志(以上美幌
町) 佐々木正俊(小清水町) 星屋泰
賢(士幌町) 家村昭矩(七飯町) 友重
崇憲(旭川市) 四釜剛(恵庭市) 堀
田理佳 湯浅匠司 中澤義之(以上札
幌市) 肥後剛(和光市)

ひまわりの里後援会

林明男 六車 潔 本田典子 西原
弘(以上遠軽町) 飯田壮一 (株)東伸

田岡久治 会田勝男 今本 勲 佐藤宏
士 西田光子(以上北見市) 島田和男
山口香織(以上紋別市) 馬場洋子(訓
子府町) 菱木富美子(斜里町) 成瀬
俊悦(雄武町) 遠藤正治(佐呂間町)
森田孝俊(別海町) 内海恵子(網走市)
野田勅子(音更町) 今野カツ子(恵庭
市)

◇書き損じハガキ

白鳥雅久(遠軽町) 阿部理美子(江
別市)

書き損じハガキを集めています

書き損じはがきや未使用のはがきを
集めています。捨てずにひまわり学園
か向陽園にお届けください。

鯉のぼりポールのご寄贈

季節はずれの話ですが、ひまわり
学園の鯉のぼりポールが新しくなりま
した。子ども施設のシンボルでもあ
る鯉のぼりを飾ろうとこの春、取り出
したところ、破損が激しく、使い物に
ならないことが判明。見かねた湯浅理
事長が新品の大きな鯉のぼりを寄贈し
てくれました(前号表紙写真)。

ところが鯉のぼりが庭木にぶつかり、
傷む原因になっていたことが判り、木
の枝をはらったりしましたが、間に合
わず、ポールの先端を足して高くでき
ないかと考え、出入りの工藤電機(株)
柴田部長さんに相談しました。

後日、「足すと強風で折れることもあ

り危険があるので、新品を会社で寄付
しましょう」と申し出てくれました。

かくて十月中旬、作業車5台を連ね
て来園され、古いポールを撤去し、新
しく「超強力スルスルポール」を設置
してくれました。高さは十六メートル
ありますから、今度は大丈夫でしょう。



ポール設置工事中

絵画のご寄贈

長崎県佐世保市佐々町で絵画の指導
をしておられる鳥巢みち子さんが、ご
自身の若いころの油絵数点を寄贈して
くださいました。南の風物が多いそれ
らの絵を、さっそく食堂や会議室に飾
らせていただきました。この後長く子
どもたちや職員の目を和ませられる
ことでしょう。

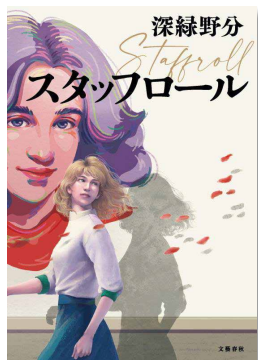


食堂に飾った作品『くだもの』です

お薦めの本

「スタッフ ロール」

深緑 野分著
文芸春秋社



先日、友人に誘われ、北見芸文ホールで、山田火砂子監督の『われ弱ければ矢嶋楯子伝』を観ました。エンドマークが出た後、クレジットが縦に流れていく中、「あっ、出てる!」と喜ぶ人たちがいました。『スタッフ ロール』です。ちなみに私は『大地の詩 留岡幸助物語』でエキストラをしました。

映画に夢を見て、映画に特殊効果という魔法で『夢』を生み出すことに人生を賭けた2人の女性クリエイターの物語です。

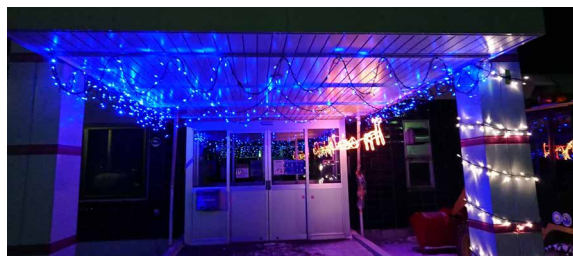
映画はハリウッド。アナログからデジタルへ、「猿の惑星」「2001年：宇宙の旅」「スターウォーズ」から「トイストーリー」へ、と特殊映像の変遷の中で、映画に魅せられた手作業による特殊造形師とCGによるクリエイターが時を超えて共鳴します。

スタッフロールはエンドロールとも言われ、エンドマークの後、スターや共演者、各部署の責任者のクレジットが縦に流れます。裏方の場合、制作にかかわっても、クレジットされない場合があります。

～映画が終わり、スタッフロールが流れる。ふたりは言葉も交わさず、ただただ、スタッフロールを眺め続けていた。～
(理事 新山 史賢)

イルミネーションの競演

今年もコロナのせいで、クリスマスパーティーはできませんが、せめて雰囲気盛りあげようと、各施設や事業所の職員は飾りつけを行っています。なかでも例年、向陽園のイルミネーションは華やかです。4時には暗くなるこの頃。今夜も利用者さんに「負けないでがんばってね」とささやくように小さな点滅をくり返しています。



向陽園のイルミネーション

お悔やみ

ひまわり学園利用者 葛木拓馬さんが、令和4年8月11日、病のため、20歳でご逝去されました。早すぎる旅立ちを傷み、在りし日を偲んで、謹んでご冥福をお祈りいたします。

あとがき

東日本大震災以来、ある緊張をもってニュース番組を見るようになりました。国内や、世界で何か大変なことがおこっていないかと。収まらぬコロナ禍、ウクライナ侵攻、知床海難事故など心痛む出来事が相次ぎました。

その中でワールドカップでの日本の活躍は、久方ぶりの明るいニュースでした。また遠軽町内ではこの夏、メトロプラザという文化センターが完成し、記念して札幌の演奏会が催されました。過疎地では生の演奏に触れる機会は少なく、すばらしい音響のホールでのオーケストラ演奏は胸を打ちました。人間の創り出したこんな美しいものが存在していたのだと、魂の洗われる思いがしました。

新型コロナは、法人内のすべての施設や事業所に感染が広がりました。さいわい数日で快癒しますが、子どもの施設は学校などからの感染を繰り返し、終わりがあるのかとさえ思われます。今号では、そんな状況にも負けず、子どもや利用者さんの最善を求めて活動しているそれぞれの現場の様子をお伝えしました。

楽しい行事も、職員の研修会も中止にせざるを得ず、ともすれば閉塞感や孤立感におちいりがちですが、こんなときだからこそ福祉の本来の目的を見失ってはならないと思っています。そのために、本広報誌がいささかでもお役にたってくれば幸いです。
(Y)



社会福祉法人 北光福祉会

〒099-0622

北海道紋別郡遠軽町生田原安国302番地7

☎0158 (46) 2120・FAX 0158 (46) 2080

H P : <http://www.hokko-fukushi.or.jp/office/>

E-mail : office@hokko-fukushi.or.jp

- 児童養護施設 北光学園 ☎0158-45-2233・FAX45-2041
地域小規模児童養護施設 きずなホーム ☎0158-45-2206
- 児童家庭支援センター 子ども家庭支援センターオホーツク
☎0158-45-3211
- 障害児入所施設 ひまわり学園 ☎0158-46-2020・FAX46-2080
- 障害者支援施設 向陽園 ☎0158-46-2525・FAX46-2277
- 地域生活支援事務所 パオ ☎0158-46-2120・FAX46-2080
パオ遠軽 ☎0158-42-3811・FAX 46-3384
- 共同生活援助事業 ゆめいく (7ヶ所) 燦ホーム (8ヶ所)
- 生活介護事業所
遊友やすくに ☎0158-46-2277 遊友えんがる ☎0158-42-3389
センターもね ☎0158-42-3720 スペースもね ☎0158-46-2120
- 就労継続支援B型事業所
遊友ほたる ☎0158-46-2460 サン・コロネ ☎0158-46-7077
- 児童発達支援・放課後等デイ サービス ☎01586-8-7300
くれよん ☎0158-46-2020 めるくる ☎0158-46-7510
- 居宅介護事業所 ぱれっと遠軽 ☎0158-42-3811
- 相談支援事業 ま〜ぶる ☎0158-46-3383